

2 現況と課題

(1) 山陽小野田市の概要

1) 位置・地勢

本市は山口県の南西部に位置し、東側が宇部市、北側が美祢市、西側が下関市に接しています。

南北が約20km、東西が約15km、市域面積は133.09km²です。

本市北側の市境の一带は標高200～300m程度の中国山系の尾根が東西に伸びており、中央部から南側にかけてはなだらかな丘陵地、台地が広がり、海岸線一帯には干拓により形成された平地が広がっています。

市内中央部を流れる厚狭川、有帆川は、いずれも美祢市に源流を発しており、本市の平地部を通して瀬戸内海に注いでいます。

市街地はこれら河川沿いの平地と干拓地を中心に形成されており、その周囲を丘陵地が囲むような地勢となっています。

[山陽小野田市位置図]

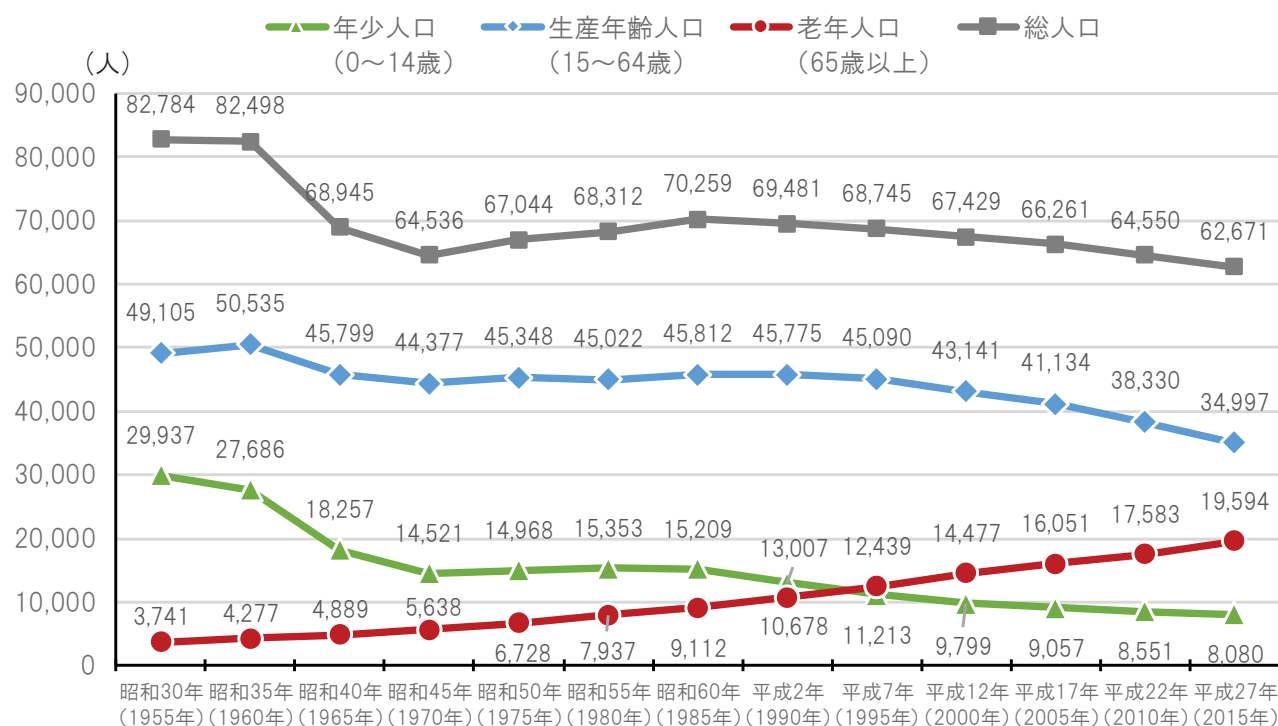


2) 人口

本市の人口は、昭和30年代の炭坑閉山に伴い、昭和35年(1960年)から昭和45年(1970年)にかけて減少しました。その後、徐々に回復したものの、昭和60年(1985年)をピークとして再び減少傾向へと転じ、緩やかに減少し続け、平成27年(2015年)には62,671人と、人口減少に歯止めがかからない状況となっています。

年齢3区分別の人口では、平成7年(1995年)に老年人口が年少人口を上回り、以降、少子高齢化が進んでいます。生産年齢人口は、平成2年(1990年)以降は減少傾向であり、平成27年(2015年)には35,000人を割り込んでいます。平成27年(2015年)の高齢化率は31.2%であり、超高齢社会(高齢化率21.0%以上)となっています。

[年齢3区分人口及び総人口の推移:国勢調査]



3) 産業

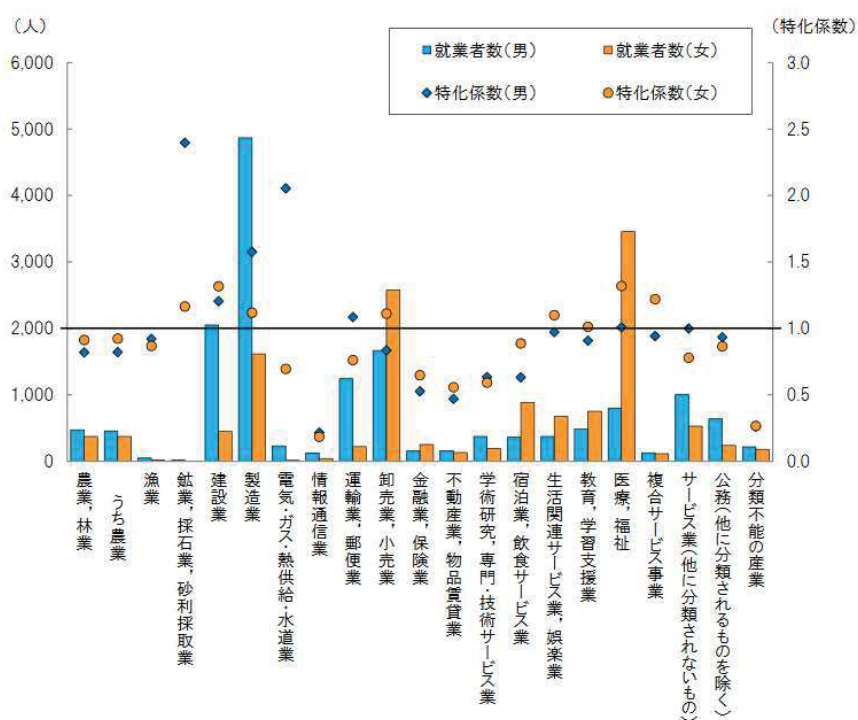
本市の就業者数は平成7年（1995年）以降、減少傾向で推移しています。第1次産業は平成2年（1990年）と比べて半数に、第2次産業は約3割の減少となっています。第3次産業は増減をしながらも平成2年（1990年）と比べて微増となっています。

市内従事者を産業大分類別にみると、製造業と医療・福祉、卸売業・小売業の業種で従業者が多く、全国との割合を比較する特化係数をみても製造業や医療・福祉関連は1.0を超えており、本市の特徴的な産業となっています。

[産業大分類別就業者数の推移: 第二次山陽小野田市総合計画]



[男女別の産業別就業者数及び産業特化係数: 第二次山陽小野田市総合計画]



工業は、平成 14 年（2002 年）以降、事業所数が減少、従業者数はおおむね横ばい傾向で、製造品出荷額は平成 21 年（2009 年）のリーマンショックにより大幅に落ち込みましたが、それ以降は持ち直しが見られます。

商業は、大規模小売店舗の立地が進む一方で小規模小売店舗の低迷が続いています。大規模小売店舗のほとんどは幹線道路沿道に立地していますが、既成市街地に近隣接しているという特徴があります。

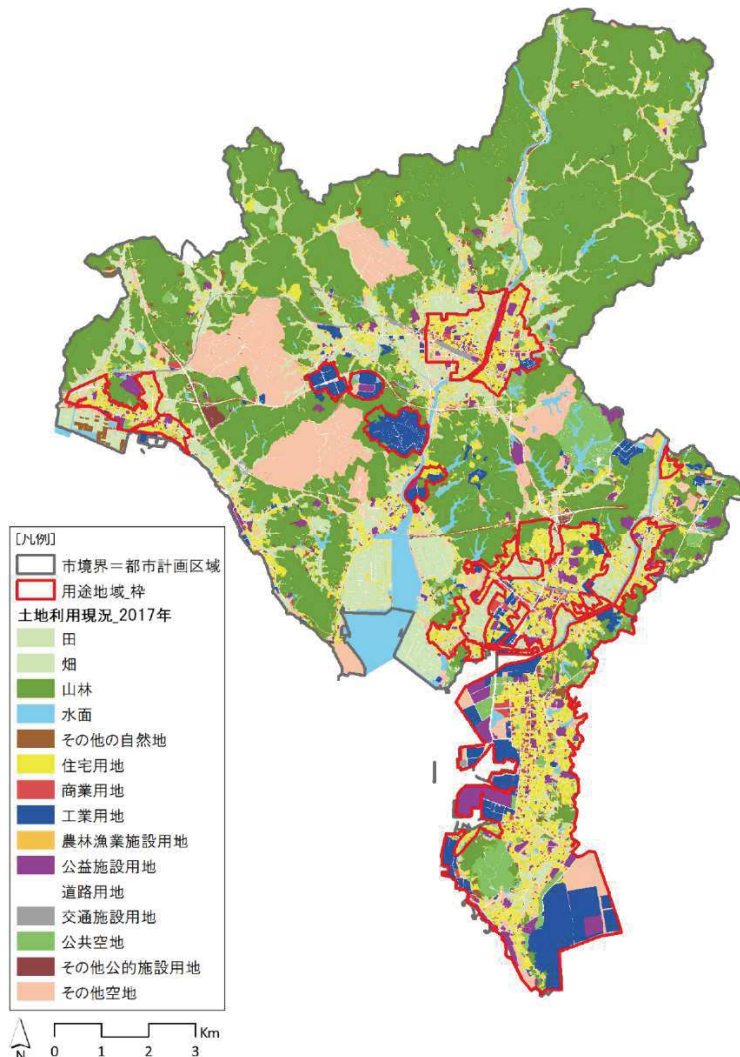
農業は、米と野菜を中心とした農業生産形態となっていますが、農家数、農業従事者ともに減少が続いています。

観光は、本市を訪れる観光客が増加傾向にあり、主にゴルフ場や観光農園が来訪者数の増加を牽引しています。

4) 土地利用

市域全体の土地利用では、宅地（住宅用地・商業用地・工業用地）や施設用地などの都市的土地利用が約 4 割を占め、農地や山林などの自然的土地利用が約 6 割を占めています。また、用途地域指定区域内では、都市的土地利用が 8 割強、自然的土地利用が 2 割弱となっています。既成市街地の周辺では、用途地域の指定のない区域においても建物用地が広がっている箇所があります。

[土地利用の状況：都市計画基礎調査（平成 29 年度（2017 年度））]



5) 交通

①道路

本市の道路網は、市域南部を東西に連絡する山陽自動車道と国道 190 号、市域中央部を東西に連絡する国道 2 号が骨格となっており、国道 316 号が南北方向を連絡する構造となっています。小野田湾岸道路が開通し、市街地内の交通の分散により渋滞が緩和されました。また、公園通り周辺やくし山の JR 跨線橋周辺など慢性的な渋滞箇所においては、整備が進められています。

②公共交通

本市には、山陽新幹線厚狭駅が設置されており、そのほかにも JR 山陽本線、JR 小野田線、JR 美祢線の 3 路線によって周辺の都市と連絡しています。

路線バスは、船木鉄道株式会社、サンデン交通株式会社、宇部市交通局の 3 社により運行されているなか、路線バスで対応できない周辺部には、コミュニティバスのねたろう号、いとね号、厚狭北部便、高畑・高泊循環線が運行しており、JR 小野田駅や JR 厚狭駅を中心に、おおむね放射線状にバス路線網が形成されています。また、厚狭地域の公共交通不便地域においては、デマンド型交通（乗合タクシー）が運行しています。

③港湾

本市には、小野田港（重要港湾）、厚狭港（地方港湾）のほか、刈屋漁港、高泊漁港、埴生漁港、梶漁港の 4 つの漁港があります。

このうち、小野田港は、平成 29 年（2017 年）現在、年間約 2,300 隻（総トン数約 220 万トン）が入港し、石炭、金属くず、鋼材などを中心に年間約 370 万トンの貨物を取り扱う港として機能しています。

6) 都市基盤整備状況

①都市計画道路

本市では、45 路線の都市計画道路が計画決定されています。計画決定延長 97,430m に対する平成 30 年（2018 年）4 月 1 日現在の改良済延長は 40,720m であり、改良率は 41.8% となっています。また、未改良のままとなっている路線の半数は、当初の計画決定から 60 年を経過している長期末整備路線となっています。

②都市計画公園

本市では、52 箇所の都市計画公園及び緑地が計画決定され、計画決定面積は 351.30ha となっています。また、計画決定されていない都市公園も数多く整備されており、それを含めた開設面積は、平成 31 年（2019 年）4 月 1 日現在で 292.30ha であり、市民 1 人当たりの公園面積は、46.5 m² となっています。これは、全国的にみても公園整備水準の高い状態となっています。ただし、街区公園などの身近な公園が不足している地区も見られます。また、当初の計画決定から長期間整備されていない公園が存在しています。

③下水道

本市の公共下水道の整備状況は、平成 31 年（2019 年）4 月 1 日現在、人口ベース普及率で 54.1% となっています。また、全体計画面積に対する整備率は、40.0% であり、下水道が未整備のままの市街地が多く残されている状況となっています。

(2) 山陽小野田市を取り巻く現状

■山陽小野田市の主な基本的特性・現況

人口

- 人口減少、少子高齢化が今後、ますます進行することが予測されている。
- 高千帆地域は人口がおおむね横ばいで推移し、その他の地域は、人口減少が予測されている。
- 世帯数の増加と核家族化が進行している。

防災

- 洪水浸水想定区域、高潮浸水想定区域、津波災害警戒区域において、用途地域内をはじめ広い範囲で被害が想定されている。
- 他都市と比べて空き家率が高くなっている。

景観

- 市域の約6割が自然的土地利用となっている。
- 市民一人当たり都市公園面積は他都市と比較して広がっている。
- 都市計画公園の約2割が未開設となっている。
- 風致地区等に代表される自然景観や文化財がある。

土地利用

- 厚狭地域では、用途地域外においても、建物用地化が進行している。
- 用途地域内の人口減少が予測される。

交通

- 都市計画道路については、計画決定から長期未整備の区間がある。
- JR小野田線の鉄道乗車数は減少傾向、路線バスは利用者が少ない区間がある。

商業・工業

- 商業は活力の低下がみられる。
- 製造品出荷額は増加傾向にある。
- 観光客入込数は増加傾向にある。
- 各商店街の事業所数が大きく減少している。
- 産業人口は減少傾向、「農業・林業」、「漁業」は、高齢化が著しい。

財政

- 財政が硬直化しており、人口減少により一層財政状況は厳しくなることが懸念される。

■都市計画に関わる上位・関連計画

- 第二次山陽小野田市総合計画
- 山陽小野田市人口ビジョン
- 山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 山陽小野田市地域公共交通網形成計画
- 山陽小野田市地域防災計画
- 山陽小野田市公共施設等総合管理計画
- 山陽小野田市住生活基本計画
- 山陽小野田市緑の基本計画
- 山陽小野田市観光振興ビジョン
- 山陽小野田市空家等対策計画
- 山陽小野田市農業振興地域整備計画

■都市計画に関わる重要キーワード(社会潮流)

- コンパクト・プラス・ネットワーク
- インフラの老朽化
- インバウンド
- 小さな拠点
- 対流型国土
- バリアフリー
- ユニバーサルデザイン
- 国土強靱化
- 土地・不動産の最適活用
- 文化的景観・日本遺産

■市民アンケート調査結果

期間:2017年11月27日~12月15日

対象:18歳以上の市民2,000人 回収数:808通(回収率40.4%)

- 「サンパーク・公園通り周辺」、「小野田駅周辺」、「厚狭駅周辺」いずれも飲食店、娯楽施設が不足している。
- 「埴生支所周辺」については、病院や診療所が不足しているという意見が多い。
- 8割以上が日常の買い物に「自動車」を利用している。
- 自動車や二輪車交通を使う際、「渋滞が多い」点が気になるという意見が多い。
- 上水道の整備、自動車の利用しやすさ、買い物の便利さ等については、重要度、満足度が高い。
- 防犯・防災対策、空き家の管理・抑制、道路の安全性、公共施設の安全性・バリアフリーなど、「安全性」の項目については、重点的な改善が必要。
- 特に身近な道路の安全性、自然災害に対する防災対策については重要とする意見が多い。

■高校生アンケート調査結果

期間:2018年7月9日~7月20日

対象:山陽小野田市内の高校(4校)の高校2年生 回収数:454通

- 小野田地域、高千帆地域、厚狭地域では、「娯楽施設や遊ぶ場所が少ない」。埴生地域では、「飲食店や商業施設が少なく、日常の買い物が不便」、「スポーツ施設が少ない」が不便・不満とする意見が多い。
- いずれの地域も、あったら良い施設・機能に「映画館」や「アミューズメント施設」などの娯楽施設が多く挙げられている。
- 来なくなるまちへのアイデアとして、小野田地域は「鉄道・バスの本数を増やす」、高千帆地域、厚狭地域は「商業施設の整備・充実」、埴生地域は「娯楽施設・遊び場を整備する」という意見が多い。

■直近10年間で整備された(整備中の)主な都市施設等

- 厚陽小・中学校の開校:平成24年(2012年)
- 山陽消防署新庁舎移転新築:平成25年(2013年)
- 小野田湾岸道路の開通:平成26年(2014年)
- 山陽小野田市民病院のグランドオープン:平成27年(2015年)
- 新ごみ処理施設の開設:平成27年(2015年)
- 山陽小野田市立山口東京理科大学の公立化:平成28年(2016年)
- 厚狭地区複合施設の開設:平成28年(2016年)
- 山陽小野田市立山口東京理科大学薬学部の開設:平成30年(2018年)
- 子育て総合支援センターのオープン:平成30年(2018年)
- 学校給食センターの運用開始:平成30年(2018年)
- 埴生地区複合施設の整備(整備中)
- 埴生小・中学校の整備(整備中)

■山陽小野田市の都市計画上の課題

【人口・財政】

- ❖ 人口減少・少子高齢化の進行による都市経営の維持

【土地利用】

- ❖ 土地利用の集約化と活力を育む土地利用の検討

【市街地】

- ❖ 市街地整備による、都市の快適性・安全性の向上

【交通】

- ❖ 交通ネットワークの整備による、利便性が高い都市の形成

【景観】

- ❖ 景観や緑の保全

【都市防災】

- ❖ 災害等に配慮した都市の形成

(3) 山陽小野田市の都市計画上の問題・課題

1) 人口減少・少子高齢化の進行による都市経営の維持【人口・財政】

状況・問題	<ul style="list-style-type: none">❖ 人口減少や少子高齢化が今後ますます進行していくことが予測されています。❖ 財政が硬直化しており、人口減少により一層財政状況は厳しくなることが懸念されます。
課題	<ul style="list-style-type: none">❖ 限られた財源の中で、都市を運営していくために、統廃合を含め、既存の都市施設を有効活用するなど、効果的で効率的な都市整備や都市形成を図る必要があるといえます。

2) 土地利用の集約化と活力を育む土地利用の検討【土地利用】

状況・問題	<ul style="list-style-type: none">❖ 高千帆地域以外は人口減少が予測されており、2040年には、小野田地域や厚狭地域、埴生地域において、人口が大きく減少することが予測されており、今後、都市の低密度化の進行が懸念されます。❖ 厚狭地域の市街地周辺においては、用途地域外で建物用地化が進行している箇所が見られます。❖ 観光や工業については横ばい・微増傾向にあるものの、商業に関しては、大型店舗の立地などにより、まちなかの商店街事業所数が大きく減少しているなど、衰退が著しい状況となっています。❖ 高校生アンケートにおいて、商業施設等の整備・充実に対する意向が強くなっています。❖ 産業人口は減少傾向にあり、特に「農業・林業」、「漁業」などの第1次産業の高齢化が著しい状況となっています。
課題	<ul style="list-style-type: none">❖ 人口減少や少子高齢化の中でも、都市を効果的で効率的に維持・運営していくために、更なる市街化を抑制・コントロールし、土地利用の集約化を図る、コンパクトな都市の形成が必要であるといえます。❖ 大型店舗と商店街において、両者の特徴や長所を活かせる土地利用などを検討・展開し、商業の活性化を図る必要があるといえます。❖ 生産者が快適に生活できる環境整備や、農地を維持・活用する方策等を検討していく必要があるといえます。

3) 市街地整備による、都市の快適性・安全性の向上【市街地】

状況・問題	<ul style="list-style-type: none">❖ 直近10年間において、地域のコミュニティを高める複合施設や、市民病院、ごみ処理施設や消防庁舎など、様々な都市施設等の整備が行われ、都市の快適性や安全性の向上に寄与しています。❖ 小野田駅前地区都市再生整備計画事業に基づき、都市基盤整備が実施されるなど、駅前の利便性や快適性の向上が見込まれています。❖ 市民アンケートでは、空家等の管理及び対策や防犯対策、公共施設や道路の安全性等をはじめとした「安全性」の項目について、満足度が低い状況にあります。❖ 特に空き家については、都市構造評価においても、他都市と比較して、空き家率が高いため、評価が低い結果となっています。
課題	<ul style="list-style-type: none">❖ 既存の都市施設等の適切な維持管理により、都市の快適性・安全性を今後も維持していく必要があるといえます。❖ 主要駅周辺では、南北の連携強化等による一体的な市街地を形成し、利便性の向上や市街地の活性化を図る必要があるといえます。❖ 危険な空き家の除却や適正管理により都市の安全性を高める必要があるといえます。

4) 交通ネットワークの整備による、利便性が高い都市の形成【交通】

状況・問題	<ul style="list-style-type: none">❖ 日常の買い物について、8割以上が自動車を使用しているなど、自動車に依存した状況となっています。❖ JR小野田線や路線バスの一部区間などの利用率が大きく減少しています。❖ 市民アンケートにおいても、「徒歩圏で買い物ができる商業施設の充実」「公共交通の利便性向上」について重点を置くべきという意向が強くなっています。❖ 小野田湾岸道路の開通などにより交通利便性が向上しています。❖ 市民アンケートにおいて、身近な道路の安全性について重要視されています。❖ 都市計画道路については、計画決定から長期未着手の区間があります。
課題	<ul style="list-style-type: none">❖ 市内外の人々が活用しやすい公共交通のサービスやネットワークの整備・強化を図ることにより、公共交通の維持や、徒歩や自転車でも生活利便性が低下しない都市の形成を図る必要があるといえます。❖ 都市計画道路や生活幹線道路の適切な維持管理により今後も交通利便性を維持していく必要があるといえます。❖ 長期未着手の都市計画道路について、整備や見直しを図る必要があるといえます。

5) 景観や緑の保全【景観】

状況・問題	<ul style="list-style-type: none">❖ 市域の約6割が自然的土地利用となっています。❖ 風致地区等に代表される自然景観や文化財があります。❖ 市民一人当たり都市公園面積は全国、山口県と比較して、大きい状況にあります。❖ 都市計画公園の約2割が未開設となっています。
課題	<ul style="list-style-type: none">❖ 今後も保安林、地域森林計画対象民有林などについて法規制の指定・運用による保全に努めていく必要があるといえます。❖ 自然景観や文化財に配慮した景観形成を図る必要があるといえます。❖ 身近な公園が不足している地区や、市街地の状況に配慮し、未開設の都市計画公園を含めた、都市公園の整備や見直しを図る必要があるといえます。

6) 災害等に配慮した都市の形成【都市防災】

状況・問題	<ul style="list-style-type: none">❖ 近年の大規模災害により、防災への意識が高まる中、市民アンケートにおいても、防災対策については重要度が高く、満足度が低い、重点的な改善が必要な項目となっています。❖ 用途地域を含む広い範囲で、洪水、高潮、津波、土砂災害などの被害が想定されています。
課題	<ul style="list-style-type: none">❖ 洪水・土砂災害等の危険性が高い市街地についての防災対策や都市基盤整備などを行う必要があるといえます。